



兵庫県と鳥取県の境目あたりにある扇ノ山と氷ノ山に行ってきたが、初日は新大阪から兵庫県に入って名所の竹田城跡の見物で始まった。日本のマチュピチュと呼ばれているみたいであるが、本物を見た立場から言う तो ちょっと違うな。ズーと放っておかれたらしく、観光地化されたのはほんのこの3～4年のことらしい。実ににぎやかな説明員がついてくれて面白おかしく城の由来などを話してくれたが、何で“竹田城”っていうの？と聞いたら、“次までに調べておきます”だって。パンフレットにもひとことも触れていなかった。高倉健さんが「あなたへ」でここを中心に撮ったようである。



にぎやかな説明員

扇ノ山 (おおぎのせん 1310m)



中国地方の山では、伯耆大山(だいせん)でおなじみのように山の字はセンと読ませる。バスは氷ノ山のふもとの氷太くんロッジから北上して鳥取市内を経由して方向を変えて南下し水とのふれあい広場(1060m)というところから、南へ向かって歩き始めてブナ林を通り抜けて山頂へ立つ。といっても頂上が1310mであるからきわめて楽な山登りである。いつもこんなに楽だったら良い。ボランティアのようであるがガイドさんがついてくれて地元のことについて雄弁に説明してくれる。



会津二岐山に続いて今回も紅葉には遅かったと思ったが、山を下りてからの林道歩きで1000m よりも下に行ったところで紅葉を楽しむことができた。



氷ノ山(ひょうのせん 1510m)



前日までの快適な天候とはうって変わって雨模様の天気であった。しかしぼつりぼつり位であったので寒い思いをするようなことはなかった。扇ノ山よりは少しだけ高い山ではあったがまあなんということはない。天気も良くなかったし、景色もほとんど望めず、ただ歩いただけという感じである。

ツアーリーダーは押田さん。彼はまいたびのカタログで見ると、最近では海外のツアーもこなしている。お客さんは女 19 人、男 4 人で相変わらずの女天国。そのうちの一人の M ヤさんは俺の名前まで憶えていてくれた。焼石岳で会ったようであるがその前にもどこかで会っているようだ。K ギさんも俺のことを見覚えがあると言っていた。前日も二岐山で会った口の上のホクロのおばさんにまた会った。